

来春への準備期間		
2004年12月	師走(しはす)・極月(ごくげつ)・余月(よげつ)・春待月(はるまちづき)	●来春への準備期間
●木枯らしが吹いて、木々も枯れ葉がめだつようになりました。ナンテンやウメドキの赤い実がとともきれいです。さびしくなった庭を片付けて、来春にむかって気分を一新しましょう。		
庭木の作業	バラの植付け／庭木の元肥	
草花の作業	フクジュソウの植え込み／落葉集めと腐葉土づくり	

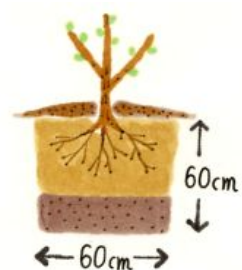
今月の誕生花	カトレア・スイセン・ポインセチア シクラメン
今月の花	花言葉/内気、はにかみ、嫉妬 花が炎を連想させることから、新築祝いには不向きです。
	<p>原産地はヨーロッパや地中海沿岸です。シチリア半島の野豚が、この花の地下茎を掘って食べるので、英語では「豚のパン」と呼ばれています。日本へやってきたのは明治時代。当時は、パンという言葉がわかりにくかったため、パンに替わるものということで、「ブタノマンジュウ」と呼ばれていたそうです。</p> <p>この地下茎は、古代ローマではヘビのかみ傷を治す力があるといわれ、御守りとして各家庭の庭に植えられていたそうです。また、葉の形が耳に似ているので、耳の病気に効くとか、お産が楽になるといった話もあったそうです。</p>



バラ苗の植付け

新たに バラを植えたい人、あるいは前からあるものを移植したいと考えていた人は、12月に実行するのが一番よいでしょう。バラは、落葉樹ですから、葉が枯れて休眠に入ってから、春に若芽が動き出すまでの間ならば、植え替えられますが、11月頃には まだ葉が青く残っていて休眠していませんし、3月になってしまえば 根の伸びる期間が短くなって、とても満足な花を咲かせることができません。

休眠後しばらくたち、寒さにあっても 枝も充実し、寒さもまだそれほどでない12月に植えておけば、すぐに新芽を出し、それだけ早く準備が進むので春の育ちが違う道理です。



- バラの苗は、11月下旬～12月下旬に 接ぎ口のしっかりとした根張りのよいものを購入しましょう。
- 日当たりのよい場所に 直径、深さともに60cmくらいの大きな穴を掘り、堆肥と肥料を十分に入れて混ぜ合わせます。苗の大きさに合わせて 穴の深さを決めて 土を戻し、苗の根を広げて配置しましょう。
- さらに、土を入れて 根元を踏みかため、水を与えます。水が引いたら寒さと乾燥防止のために、土を根元に寄せます。
- 3月になったら平らにしましょう。

庭木の元肥

- この時期に与える肥料は、これから1年 樹木がよく育つための元肥となるもので、新しい根が伸びだす前に施しておく効果的です。
- 株の周りを掘り、堆肥に肥料を混ぜて 土とかき混ぜ、埋め戻します。
- バラ、果樹などには 早めに行います。普通の庭木には 特に必要ありません。

フクジュソウの植え込み

日本で一番早く 春の訪れを告げる草花は、フクジュソウでしょう…。庭の日だまりに植えたものは、2月初めの立春のころには黄金色の第一花が咲き出し、冬枯れだった庭に あざやかな春の火をともします。

名前がおめでたいので、昔から お正月用の鉢植えとして人気があります。

暖めて無理に咲かせようとした鉢植えが 年末になると町に出回りますが、ほとんどが咲ききらずにおわってしまうので、買わないほうが賢いようです。むしろ、しっかりした根株だけを求めて、鉢植えにしたり、庭に植えて、ごく自然に育てたほうが立派な花が咲いてくれます。

●フクジュソウの根株は、数本の大きなツクシ状の芽と、ヒジキのような堅い根からできていて、12月になると園芸店で売られています。芽と根の部分が、緑色で乾燥していないものを選びましょう。芽が、白っぽくなっていたり、黒くなっているものは絶対にダメです。

●庭植え

庭植えの場合、日当たりのよい場所を選び、腐葉土・油粕・骨粉を混ぜて2週間寝かし、根株を植えつけます。根をよく広げて 株をすえ、芽先がわずかに隠れるくらいに覆土をして しっかりと押さえつけましょう。

株元には、落ち葉などでマルチングしておくことで乾燥防止に役立ちます。寒中は、落ち葉などをかけてマルチングをしてやり、乾燥からまもってやりましょう。



●鉢植え

フクジュソウは鉢植えでも十分に楽しめます。鉢は、6号鉢以上のものを選び、鉢底にゴロ土を入れ、庭土に腐葉土を3分の1ほど混ぜ込んだ用土に植え付けましょう。

植え付けのポイントは、中央部が少し高くなるように植えることです。根が多くて 鉢内がいっぱいとなりますが、根を巻くようにして植えて収め、切り詰めるようなことは厳禁です。

植えた後は、日当たりのよい場所において管理します。花後は、5月頃に葉が枯れて休眠期にはいるので、以降は日陰に移しましょう。



シクラメンの楽しみ方

花期が長く、開花後の栽培が比較的簡単なシクラメン…。上手に育てると 5月上旬まで花を楽しめます。

花数は少なくとも つぼみが たくさんつき、しまった苗を選ぶこと。

耐寒性がないので、冬は室内での管理が鉄則です。

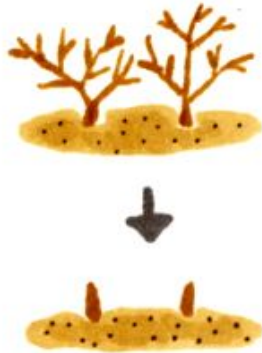
また、日当たりが悪い場所での栽培が致命的!! 葉が黄色く変色し、株を弱らせてしまいます。

あたたかすぎる室内も避けましょう!!

水やりは表土が乾いてきてから。しおれた葉は、こまめに摘み取りましょう。

庭のかたづけ

1年間に茂った枝や茎葉が枯れて雑然とした庭を片付けましょう。ハギの株や宿根草などの、枯れた茎が残っていて見苦しい場合、1~2節残して刈り取ります。草花の枯れはすべて刈り集め、焼いてしまうこと。特に病害虫にかかったものは、よい予防となります。



コンテナ類も整理しましょう。すっかり枯れてしまった草花の植えられていない鉢は、土を出して汚れを落として来春に備えましょう。



庭の落ち葉は、集めて腐葉土にしましょう。

落ち葉集めは、雨のあとがいちばんよいでしょう。それは、湿っていてほこりが立ったり、風で落ち葉が飛び散らないのと、積み込みやすく、しかも発酵しやすいからです。

種類としては、シイやカシなどの肉の厚い常緑樹のものが最高ですが、この時期のケヤキなどの落葉樹などの落葉も大量に落ちるので大切な資源です。イチヨウなどはべたつくのでダメです。針葉樹も樹脂が多くて腐りにくいので適しません。

落ち葉の積み込み

腐葉土づくりは、落ち葉だけを積み込んでもなかなか腐りません。

まず、湿った落葉を広げておき、ここに米ヌカ等と酵素をふりかけ、よく混ぜ合わせます。

これを庭のすみに1m角に少しずつ積み、よく踏みつけます。これを繰り返して積み上げ、最後に土をのせて、むしろなどをかけ、ビニールや古トタンで雨よけして、風で飛ばないように重しをします。

乾燥すると発酵が止まるので、水をかけるとよいでしょう。

積み替え

発酵が始まると、熱が出て、ある部分のみ腐熟が進みます。

そこで、1ヶ月くらいたったら切り崩して、周りを内部にするようにして積み替えます。これを2回も繰り返すころには、すっかり発酵が終わってできあがりです。